

ホオジロガモは恋の季節 (カモ科) 全長45センチ

厳冬の雄物川でホオジロガモの群れが見つかった。

流れの早い中央に20羽ほどが浮かんでいる。群れを眺めていると次々と水中に潜り込み、水面には1羽もいなくなった。

まもなく1羽、2羽と浮かび上がった。10羽ほどになったが再び潜るのも多く、なかなか全員が揃うことはありません。餌は貝類、エビやカニなどの甲殻類、小魚、水生昆虫などで、植物質も少し食べると言われる。やがて食事が終わったのでしょう。全員が水面に揃いました。



オスは両頬が白く、名前の由来となったようだ。

1羽のオスが頭を真上に突き上げたり、真後ろの背中に倒したりを繰り返している。

眺めているとユーモラスな行動であるが、ホオジロガモの求愛ディスプレイである。日本から数千キロも離れた、ユーラシア大陸と北米大陸の亜寒帯が彼らの繁殖地です。



メスのクチバシ先端は橙色で、虹彩は白い。



上がメス。オスが近づいてきた。

繁殖地を目指して飛び立つ季節はまだまだ先のようです。

しかし、今からつがいの相手を見つけなければならない習性があるのでしょうか。真冬の厳しい秋田であっても、ホオジロガモにとっては大事な恋の季節なのです。



頭を後ろに反らせてメスにアピール。



両頬に淡い白斑が見え虹彩は黄色い。オスの若鳥。